PHASEプログラム報告書

情報データ科学部3年

・プログラムの目的

PHASEプログラムは、地球の健康を守るためにアフリカと日本が協力して、「プラネタリヘルス」にふさわしい人材を育成します。そのために、様々な専門を勉強する学生を集めて、直接ケニアで現地の人と交流し、ケニアのヘルスシステムを理解し、自分の専門とどう結べるかについて工夫します。

・活動内容

ケニアのKwaleという地域を訪問してケニアの現状を直接見てヘルスシステムを把握しました。1日目にはMOH&MOEを訪れ、ケニアの医療システムについて説明を聞きました。ケニアは政府とカウンティ(County)の部署が分かれていて、各々が独占的な機能を持っています。そしてケニアの医療システムは段階的に構成されており、どのレベルでどう対処するのかについて説明を受けました。

2日目には、Kizibe Dispensaryというカウンティ部署を訪れました。小児の予防接種や妊婦の事後管理をモニタリングするシステムを備えており、医療品が十分に用意されているが、人手が足りないというのが問題でした。その地域で最も多く発生する病気はマラリアで、URTIがその後に続きました。午後には町を訪れて、ケニアの伝統料理を体験し、村人がどのように生活しているかを見ることができました。彼らは水が必要な場合、川から水を汲んできます。トイレの設備は整っていないので、穴を掘ってトイレとして利用します。水を供給するのが難しいので衛生に気を使うのが難しく、これが複数の問題を発生させていると思います。

3日目には、Mwachinga Dispensaryという保健施設を訪問しました。その地域の人口は約2000人で、給水施設が整っていて薬品も十分に備えられていました。この地域でも Kizibe Dispensaryと同様にマラリアが最も多く発生しています。午後には Ng'onzini 学校に訪問して学生たちと交流しながら日本の遊び文化を知らせて、彼らに新しい経験ができるようにしました。また、Digo 伝統ダンサーたちに出会い、彼らの伝統音楽を一緒に楽しみました。ダンサーたちは音楽を楽しむ以外にも様々な活動をして、山林を復旧するために木苗牧場を保有していて、水を供給できる水タンクを所持しています。

その後、ナイロビに復帰し、Kwaleでどんなことを学んで活動したのかを発表してみんなと意見を共有しました。また、ナイロビ国際サファリでさまざまな野生動物を直接見る時間を持つことができました。

・感想

医療知識がほとんどないうえに、その説明を英語で聞き続けなければならなかったため、ケニアのヘルスシステムについて理解するのはかなり困難でした。また、自分の専門を利用して考えてみることも、学部3年生として深い知識を持っているわけでもないので、どのように関連させていけばいいのかアイデアがよく浮かびませんでした。しかし、ケニアの学生たちから現在データや情報処理を利用してどのようにシステムを扱っているのかなどについての説明を聞きながら様々なアドバイスを聞くことができたので、これからの自分の歩みに役立ったと思います。 私自身としては英語力が足りない状態で参加したので、もっと深く多様な話ができなかったのが一番残念でした。また、「プラネタリヘルス」というテーマを引き続き扱わなければならないので、現地に行く前にあらかじめ大学で関連した知識を教えたりして、学生たちがプログラムのテーマに対する理解度をもっと高められたらもっと良かったのではないかと思います。最後にアフリカに行ったので、必ずサファリに行くことをおすすめします。

ホテルに冷蔵庫やエアコンがないとか、水圧が弱いとか、食べ物が口に合わないといった生活面で少し不便はありましたが、今回のプログラムに参加したことに後悔はなく、貴重な経験を得られたと思います。